

平成 29 年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

農林水産省大臣賞に宮城県・(有)川村ファーム 殿

枝肉単価 16,885 円で(株)丸富商店 が落札

平成 29 度全国肉用牛枝肉共励会が、10 月 24 日から 10 月 27 日までの 4 日間にわたり、東京食肉市場に出荷実績を持つ 28 都道府県より選抜された第一部 乳用去勢牛及び交雑去勢牛 70 頭、第二部 和牛去勢牛 274 頭、第三部 和牛牝牛 156 頭の合計 500 頭で開催された。

名誉賞に輝いた第二部 和牛去勢牛 149 号は、宮城県から出品された(株)川村ファーム殿の出品牛で、父が「幸紀雄」、母の父が「安福久」で、月齢 30 ヶ月、生体重 866kg、枝肉重量 622 k g、歩留 71.8%、格付 A5（BMS12・BCS3）、ロース芯の面積が 125 c m²、バラの厚み 10.0 cm、皮下脂肪の厚さ 1.7 cmで、全体に肉付き均称の良い体型で、ロース芯が充実し肉質光沢に優れた無駄のない正肉歩留まりの良い素晴らしい枝肉でありました。枝肉単価は 16,885 円、枝肉金額が 10,502,470 円で、(株)丸富商店により落札されました。名誉賞に輝いた(株)川村ファーム殿は、農林水産大臣賞、東京都都知事賞を始め、数々の名誉ある褒賞を受賞されました。また、各部の最優秀賞は、第一部 北海道・魚石光昭殿の 1 号牛が、枝肉単価 2,800 円で(株)オーエムアイ、第二部 宮城県・(株)川口ファーム殿の 148 号牛が枝肉単価 10,209 円で(株)ふじなわ、第三部 鳥取県・田村正道殿の 635 号牛が 12,080 円で(株)吉澤畜産により購買されました。部門別の成績は下記の通りです。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第 1 部乳用・交雑去勢	70	929	1095	796	609	740	520	65.5	69.7	62.1	1,464	2,800	1,000
第 2 部和牛去勢	274	839	1087	665	572	730	445	68.1	72.6	62.9	2,659	16,885	1,600
第 3 部和牛牝	155	701	929	530	475	626	343	67.8	72.0	62.3	2,819	12,080	1,700

本共励会の出品規則第 6 条「生体到着時体重の制限」により、第二部 和牛去勢の部 29 部頭、第三部 和牛牝の部で 5 頭の合計 34 頭が審査対象外となり、審査の対象となったのは 465 頭でありました。また、第三部 和牛牝の部の 1 頭は、検査保留の為、上場されていません。

大動物事業部

<10 月の相場動向>

10 月の牛枝肉相場は、和牛去勢は A5 が前月比 1 円安の 2,813 円（前年同月比 99 円安）、同 A4 が 71 円安の 2,314 円（同 266 円安）、同 A3 が 22 円高の 2,026 円（同 421 円安）、同 A2 が 37 円高 1,745 円（同 509 円安）となり、交雑種去勢は B4 が 77 円安の 1,638 円（同 185 円安）、B3 が 37 円安の 1,396 円（同 286 円安）、B2 が 15 円高の 1,157 円（同 356 円安）であった。和牛、交雑牛とも月を通じて相場は弱含みとなった。前月同様に歩留まりや枝肉仕上りの良し悪しで引き合いと価格差が大きい状態は続いている。

和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,813 円	96.6%	100.0%
A4 2,341 円	89.8%	97.1%
A3 2,026 円	82.8%	101.1%
A2 1,745 円	77.4%	102.2%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,638 円	89.9%	95.5%
B3 1,396 円	83.0%	97.4%
B2 1,157 円	76.5%	101.3%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 該当なし		
B2 1,015 円	141.2%	107.6%

<11 月の牛枝肉相場見通し>

10 月の中旬以降、気温の低下にともない売り場では棚替えが進んでいるものの、末端需要の低迷などから和牛 2~3 等級、交雑牛などでは引き続き軟調な相場状況が予測される。また、年末需給に際し和牛の出荷頭数が少ないなどから、中旬以降は歳末ギフト用の手当て買いが活発化し引き合いが強まることなどで、4 等級以上の上物規格については強含みの相場展開か。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,650~1,750
A4	2,450~2,550	B3	1,400~1,500
A3	2,050~2,150	B2	1,050~1,150
A2	1,700~1,800		
乳牛去勢			
B3	1,150~1,250		
B2	1,000~1,100		

小動物事業部

食肉流通統計によると、9 月の全国と畜頭数は 131 万 824 頭（前年同月比 96.5%）となり前年より減少した。全国の 1 日あたりの平均と畜頭数は上旬 5 万 8,983 頭（98.7%）中旬 6 万 5,886 頭（99.5%）下旬 6 万 6,500 頭（96.4%）。枝肉相場は上物税込み 600 円台の高値相場の展開となり、600 円相場は 3 連休前の 15 日まで続いた。また、9 月分の豚肉通関実績は、総量で 7 万 3,054t（前年同月比 101.0%）と前年を上回った。うちチルド 3 万 1,422t（同 97.8%）で内訳は、米国 1 万 6,183t（同 89.6%）、カナダ 1 万 4,399t（同 110.6%）の増、メキシコ 836t(同 80.2%)となった。フローゼンも 4 万 1,631t（同 103.5%）と前年を上回り、デンマーク 9,715t（同 99.4%）、スペイン 8,289t、メキシコ 5,370t（同 106.3%）、米国 3,961t（同 62.8%）、カナダ 2,559t（同 76.8%）と米国が大幅に減少した。

<10 月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
2 日	61,100	534	512	711
3 日	63,300	569	543	703
4 日	62,700	565	542	683
5 日	66,300	590	573	755
6 日	63,400	595	586	782

上旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 3,360 頭と前年を下回る頭数となり当市場においては平均 727 頭であった。10 月に入っても全国頭数は大幅に増えることはなかったが、三連休前の 5 日は上物相場 590 円と大幅に上げた。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
10 日	74,200	586	577	808
11 日	69,700	557	509	1,080
12 日	70,300	538	505	879
13 日	68,300	530	510	1,100
16 日	63,500	540	504	817
17 日	66,500	549	525	724
18 日	66,700	526	505	736
19 日	68,900	535	501	815
20 日	67,400	533	508	913

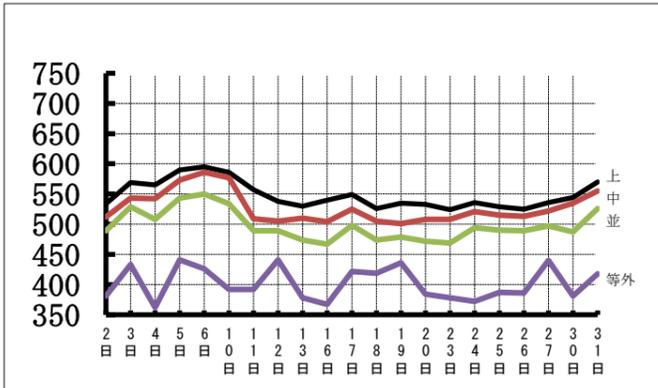
中旬の全国と畜頭数は 1 日あたり 6 万 8,389 頭と前年をやや上回った。当市場の 1 日平均は 875 頭と前年と同様であった。連休明けの補充買いもあり、相場は底堅い展開が続いている。2 週目になると朝晩の気温が下がり秋らしい気候となり鍋物需要でバラの荷動きが良化傾向となった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
23 日	62,200	524	508	624
24 日	67,700	536	521	873
25 日	65,700	529	515	673
26 日	69,800	525	513	626
27 日	67,400	526	522	909
30 日	65,700	544	535	640
31 日	69,400	570	555	909

10 月は台風が多く需要動向も影響を受け、ロースの動きが鈍かった。しかし、鍋物需要の強まりからバラ・スソ物の動きは堅調な展開となった。全国と畜頭数は、10 月後半となっても 7 万頭を上回る日はなく、上物相場も 500 円を切ることはなかった。

<11 月の豚枝肉相場見通し>

農水省による 11 月の全国と畜頭数は、148.3 万頭（前年同月比 101%）と予測しており、1 日あたりの頭数は約 7 万 4,150 頭である。当市場の 11 月の集荷予定頭数は 1 万 8,000 頭となっており、1 日あたりでは約 900 頭の見込みである。また、農畜産業振興機構によると 11 月分の豚肉輸入見込数量は、総量で 7 万 5,600t（前年同月比 99.1%）の予測となっている。内訳はチルドが 3 万 3,000t（同 109.6%）、フローゼンは 4 万 2,600t（同 92.2%）の予測である。また 8 月における豚肉推定在庫量は、国産品 1 万 5,643t（前年同月比 89.2%）、輸入品 16 万 1,420t（同 101.7%）となり合計 17 万 7,063t(同 100.4%)となった。推定出回り量は 14 万 4,784t(前年比 104.5%)で前年を上回った。うち国産品は 6 万 8,865t（同 94.9%）、輸入品は 7 万 8,619t(同 114.5%)であった。国内生産量は 7 万 86t（同 98.1%）と前年を下回った。例年は 10 月～11 月には相場が底値傾向となるが 10 月の極端な下落はなかった。これは全国頭数が見込んでいた程増えてこなかったことも要因のひとつとされる。11 月はますます気温の低下が見込まれる為、鍋物商材の需要は高まり、バラについては引き続き堅調な展開となるだろう。また、肩ロースやスソ物において荷動きは悪くないが価格は軟調となっている。フローゼンは引き続きタイトな状況にはあるものの、チルドがやや軟調なこともあり、ロイン系やスソ物の品薄感はや緩和されつつある。11 月後半からは年末に向けた手当て需要が見込まれるだろう。最近の相場動向は 500 円台前半から後半で落ち着いていることから極端な乱高下の相場展開とはならないと予想される。よって当市場の 11 月の加重平均は上物価格で 500 円前後、中物価格は 480 円前後と予測する。



東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127